

多様な「みとり」考えよう

日本ホスピス・在宅ケア研究会(大頭信義理事長)は第21回全国大会を6、7の両日、長崎市茂里町の長崎ブリックホールで開く。テーマは「そいでよかさ、長崎があるがままに生きるための地域連携ネットワーク」。患者と家族が納得できる治療を受け、希望する場所で過ごせるように、その選択を支援する地域の体制づくりについて考える。



「これだけの内容を聞ける機会はありません。ぜひ一般市民も足を運んでほしい」と言う大会長の白髭豊さん。＝長崎市

同研究会はがんや在宅ケアなど今日的な医療や福祉の諸問題について専門家と市民が同じ高さの目線で考えようと1992年に設立。毎年開く全国大会でも市民参加を広く呼び掛けているのが特徴。

大会長を務める「長崎在宅Drネット」事務局長で白髭内科医院院長の白髭豊さんは「これから到来する『多死時代』では病院だけでなく

そいでよかさ、長崎

～あるがままに生きるための地域連携ネットワーク～



終末期の在り方をイメージして全国大会の抄録に描かれたイラスト

6・7日

県内連携事例を紹介

柳田邦男さんら登壇

く、在宅施設でもみとっていく必要がある」と指摘。大会中は「日本のホスピスは人生のごく当たり前のワンステップであり、みとりは忌み嫌うものではない。暗いことでも、重いことでもなく、普通の感覚でできること。そのことを知ってもらえるよう楽しいプログラムを多数用意し、講師に著名な方々を招いた。ぜひ一般の方や学生にも参加してもらいたい」としている。

6日のシンポジウムでは、午前9時の部で長崎在宅Drネットやナースネット長崎、長崎薬剤師在宅医療研究会「Pネット」など、県内の連携事例を紹介。午後の部で全国の先進例の発表がある。6日午後からは長崎で撮影された映画「いつか読書する日」を上映。その続方明監督と、映画「ヒポクラテスたち」の大森一樹監督

のトークショーがある。大会中は「日本のホスピスの父」とも呼ばれる相木哲夫さん、ホスピスで学んだ心のケアを「いのちの授業」として紹介している小澤竹俊さん、順天堂大に「がん哲学外来」を開設した樋野興夫さんの講話や、「野の花診療所」院長の徳永進さんと聖路加国際病院小児科部長の細谷亮太さんのトークセッション、作家・柳田邦男さんの登壇も予定。

ほかにも「聞き書き」やエンゼルケア、サウインドヒールینگ、セラピューティックケアの体験など盛りだくさんの内容。プログラム概要は全国大会のホームページで紹介している。

参加費は一般5千円(学生千円)。7日午後3時半からの公開講座「ペコロスの母に会いに行く」は無料。問い合わせは大会事務局

問(095・811・5120)。

「ワイド企画」健康生活欄は毎月第一月曜日に掲載します

20)。小出久

